研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-162	A-163	20-085	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Transactional Sex, Alcohol Use and Intimate Partner Violence Against Women in the Rakai Region of Uganda

ウガンダのラカイ地域における女性に対するトランザクション・セックス、アルコール使用、近親者間暴力

執筆者

Miller AP, Pitpitan EV, Nabukalu D, Nalugoda F, Nakigozi G, Kigozi G, Grabowski MK, Kennedy CE, Wagman JA.

掲載誌

AIDS Behav. 2021 Apr;25(4):1144-1158. DOI：10.1007/s10461-020-03069-9.

キーワード	PMID
アルコール使用、HIV、近親者間暴力、サハラ以南のアフリカ、トランザクション・セックス、ウガンダ	33128109

要　旨

目的：サハラ以南のアフリカでは、トランザクション・セックス（TS）が流行している。女性において、TS は HIV 感染と関連するが、確立された HIV リスク行動である TS、近親者間暴力（IPV）、アルコール使用との関連はほとんど知られていない。

方法：2016 年 8 月から 2018 年 5 月にウガンダの 40 のコミュニティで行われた Rakai Community Cohort Study の横断的データの二次分析を行った。データ欠損のない 8248 人の女性（15 歳から 49 歳）を分析対象とした。過去 1 年間の TS（最大 4 名）について自己申告にて評価するとともに、過去 1 年間の飲酒状況および Confict Tactics Scales （CTS）に基づく IPV の被害を調査した。修正ポアソン回帰を用いて、TS と身体的・言語的・性的 IPV との関連を評価した。

結果：IPV に対し、飲酒と TS の交互作用は認めなかった。飲酒有と TS 有では、身体的・言語的・性的の 3 タイプ全ての IPV リスクが有意に高かった。コミュニティータイプ（農耕・漁業・貿易）による層別分析では、TS 有は農耕民族でのみ IPV と関連した。一方、飲酒有は、貿易民族における身体的 IPV または貿易民族および漁業民族における性的 IPV と関連を認めなかった。

結論：コミュニティタイプ別に、IPV に関連する HIV リスク行動を特定することで、より包括的で的を絞った IPV および HIV 予防プログラムの開発につながる可能性が示唆された。